

作曲家・信長貴富さんのメッセージ

この編曲譜は2022年3月22～26日に長崎で催された第11回JCAユースクワイアのリハーサルキャンプとコンサートのために作られたものです。ウクライナ人歌手ナターシャ・グジーさんの訳詞による「故郷(ふるさと)」の存在を松村努先生がキャッチされ、これを編曲してはどうかというご提案を私にいただいたのがJCAユース開催の数日前でした。それからの動きは非常にスピーディーで、松村先生のご仲介によりウクライナ語訳詞の編曲譜への使用をナターシャさんにお許しいただき、この編曲譜が3月20日にできあがりしました。指揮の松原千振先生とJCAユースの優れたメンバーが短時間で仕上げてくださり、3月24日に長崎市の平和祈念像の前で献歌が実現しました。折しもウクライナにおける戦況が日々ニュース映像として飛び込んでくる中であり、音楽人としてこの機会に何か発信できないかという思いが重なっての行動でした。

このような経緯から、譜面を無料でシェアして多くの合唱人に歌っていただくのがいいのではないかと思います、全日本合唱連盟のご尽力でここに楽譜を公開することになりました。なおWEBサイト上でダウンロード可能な譜面は日本語のみのヴァージョンです。ウクライナ語版は訳詞の著作権処理を行う必要があるため、全日本合唱連盟事務局に申し込む形となっています。また、ウクライナ語の発音表記についてはナターシャ・グジーさんにお力添えいただきました。初演並びに譜面作成にあたってお世話になった皆さまに感謝申し上げます。

JCAユースによる初演は無伴奏混声合唱の形態でしたが、譜面には省略可能なピアノ伴奏が付いています。また、女声合唱版も同じ譜面に収められています。混声版と女声版は同時に演奏することが可能です。

ウクライナ語版の方は、例えば一回目をウクライナ語、二回目を日本語(またはその逆)のように演奏する前提で編曲しており、リピートによってアレンジを変奏させることはしておらず、同じ音を異なる言語で歌うことの面白さを狙ったものになっています。

日本語版も編曲の内容は同じですので、一番～三番を単純にリピートするとやや冗長に感じられるかも知れません。例えば一番をユニゾンで(その際は別の調でもいいでしょう)、二番と三番を編曲譜の通りに歌う等々、ご自由な発想でこの譜面をお使いいただければと思っています。

最後に、以下は私の個人的な思いですが、この曲があらゆる国の言葉で歌われたらと夢見ています。たとえ国と国とに争いが起こっても、音楽を愛する市民どうしは連帯すべきだと思うからです。あるいは日常的にその心の連帯が持続すれば、世界から戦争をなくすことができるのではと(夢想的ではありますが)考えています。ウクライナ語、ロシア語、英語、中国語、ハングル……いろいろな言葉で歌い合える日が来るようにと願っています。